

約 束

浅井
忍

人物

大野洋平（34）（12）会社員

大野麻衣（27）（5）洋平の妹

大野美和（37）麻衣の母親

大野武（39）麻衣の父親

山崎大志（28）麻衣の婚約者

スタッフ1 結婚式場のスタッフ

カメラマン（声のみ）結婚式場のカメラマン

○大野家・台所／居間（朝）

居間と繋がった台所。

居間には小さな仏壇が置いてある。

台所の壁に掛けられたカレンダー。

カレンダーは6月。14日土曜日まで

全ての日付に×が付けられている。6

月28日土曜日の日付は○で囲まれ、

麻衣結婚式の文字。

カレンダーを見ている大野弘平（3

4）。

大野麻衣（27）が居間から弘平を見

つめている。

麻衣に気づく弘平。

弘平「麻衣、帰ったんか」

麻衣「……」

弘平「大志くんの家に泊まって来るんちゃう

かったんか？」

麻衣「あ、うん。さっき帰ってきてん。忘れ

物して」

弘平「ふおん。そっか。（カレンダーを見て）

しかし、もうすぐやなあ、結婚式」

麻衣「うん、そやな」

カレンダーをまじまじと見る弘平。

弘平「せや、朝ごはん、まだやろ？ お兄ちゃん、パン焼くけど、麻衣も食べるか？」

麻衣「いや、ええわ。それよりさ、お兄ちゃん、ちよつと聞いて」

弘平「うん、どしたん？」

背筋を伸ばし、佇まいを正す麻衣。

麻衣「お兄ちゃんへ。私が11歳、お兄ちゃんが高校卒業の時に、お父ちゃんとお母ちゃんが火事で亡くなりました。それから今まで親代わりになって私を育ててくれてありがとう」

弘平「おお…」

麻衣「お兄ちゃんは、大学進学を諦めて働
き、私を大学まで出してくれ…」

弘平「ちよちよちよつとまって。え？ 花嫁
からの感謝の手紙？ 結婚式でよく読むや
つ？」

麻衣「うん」

弘平「うん、って。早いやろ。結婚式までお
いといてな。結婚式で同じの聞いたら、あ
あ、この下りから、ああなるんやなって冷
めてまうやろ」

麻衣「ええやん。今言いたいねん」

弘平「なんでやねん。しかも、なんで手紙持
ってないねん。覚えてんのか？」

麻衣「いや」

弘平「いやって。行き当たりばったりかい
な、いや、ええけど、でもせめて結婚式の
日にしてや」

麻衣「聞いて」

弘平「なんや、俺、添削したらええんか」

麻衣「お兄ちゃん、ありがとう。ほんまに感
謝してる。ほんまに、ありがとうございま
した」

頭を下げる麻衣。

弘平「……」

顔を上げる麻衣。涙を流している。

弘平「いや、まあ、そんな……」

弘平、涙ぐむが隠す。

弘平「せや、お父ちゃんとお母ちゃんのお水
変えな……」

仏壇に行こうとする弘平。

麻衣「(大きな声で) ええよ! 私がやる」

弘平「なんや、いきなり大きな声出して」
言いながら居間に置いてある仏壇に目
をやる弘平。

仏壇には大野武(45)と大野美和
(43)の写真と共に、弘平(34)
の写真と骨壺が置かれている。

弘平「……」

麻衣「お兄ちゃん……」

カレンダーの方を見る弘平。

カレンダー前の床に、蓋の付いていな
いマジックペンが転がっている。

弘平「……」

○同・台所(深夜・回想)

カレンダーの前に立つ弘平。

6月14日土曜日の日付を、マジックで、○で囲む弘平。

弘平、少し微笑む。

急に胸が苦しくなる弘平、そのまま倒れる。

持っていたマジックペンが床に転がる。

○同・居間（朝・回想戻り）

カレンダーから自分の遺影に目を向ける弘平。

弘平「そうかあ……」

麻衣「お兄ちゃん」

弘平「結婚式、するんやろ？」

麻衣、首を横に振る。

弘平「やってくれよ。麻衣が結婚すんの、そりゃ、ちょっとは寂しいよ。せやけど、ここまでお兄ちゃん、ああ、よう頑張ったなあって、やっと肩の荷下りるわって、思っ

とったんやで」

麻衣「こんな状況で無理やろ」

弘平「無理なことあるかいな。ちょっと死んだだけやん」

麻衣「何言うてんねん。お兄ちゃんおらんに、無理や」

弘平「結婚式はやれ」

麻衣「嫌。無理」

弘平「化けて出てくんぞ」

麻衣「もう出てきてるやん」

弘平「ほんなら、成仏せーへんぞ」

麻衣「絶対せーへん」

弘平「何でやねん」

麻衣「結婚式せーへんかったら、お兄ちゃん、ずっとここおるんやろ？　ほんならせ

ーへん。絶対せーへん」

弘平「そんなこと言わんと…」

麻衣「お父ちゃんとお母ちゃんがなくなつて、お兄ちゃんまで……。うち一人になつてまう」

弘平「大志くんが、おるやないか」

麻衣「それはそれ、これはこれ！」

弘平「何言うтонねん。これから、新しい

家族出来るんやから。な？」

麻衣「嫌や……。行かんといて」

弘平「花嫁衣装着了麻衣と、バージンロー

ド？ 歩くの楽しみにしてたんやから」

麻衣「お兄ちゃん、おらんやん」

弘平「行く。絶対行く。せやから、な？」

麻衣「どうやって……」

弘平「お兄ちゃんが嘘ついたことあるか？」

麻衣「私が幼稚園の時、これは小学校上がっ

てからでないと食べられへんアイスや、食

べたら捕まんでって言って、お兄ちゃん、

アイス全部食べた。私が小1の時、観たい

テレビで揉めた時、今度、お小遣いでお菓

子買ったる言うたのに、買ってくれへんか

った。私が小2の時、DFO見たって言うて

…」

弘平「分かった、分かった。もう、なんやね

ん。なんでそんな覚えてんねん。しかも、
刻むね。俺、毎年嘘付いてたんかいな」

麻衣「行かんというて」

弘平「……」

麻衣、泣いている。

弘平「あ、そうかあ。心残りあったんやな

あ」

麻衣「？」

仏壇を指さす弘平。

弘平「引き出し、開けてみ」

麻衣、仏壇の引き出しを開ける。

中には、一枚の写真がある。

写真は遊園地で撮られており、麻衣

(5)を中心に、弘平(12)、武(3

9)、美和(37)、皆で抱き合っ

とつになっている。

写真を見つめる麻衣。

麻衣「これ……」

弘平「火事で家族写真、全部燃えてなくなっ
たと思ってたら、この間1枚だけ出てきて

ん」

写真を見つめる麻衣。

弘平「覚えてるか？ 麻衣が幼稚園の頃やっ
たかな。皆で遊園地行って、麻衣が迷子な
ったん」

○遊園地（回想）

多くの家族連れで賑わっている。

園内では楽し気な音楽が鳴っている。

麻衣（5）が泣いている。

麻衣を慰める美和（38）。

その横で立っている弘平（12）と武
（39）。

美和「ほら、麻衣。もう泣かないよ」

麻衣「お父ちゃんもお母ちゃんもお兄ちゃん
もおらんくて、怖かった」

美和「そうやね。怖かったね。もう大丈夫や
からね」

麻衣を抱きしめる美和。

美和「お父ちゃんもお母ちゃんもお兄ちゃん

も、ずっと麻衣の傍におるからね」

麻衣「ずっと？ これからもずっと？」

美和と武、顔を見合わせて笑う。

武「ずっと、一緒やで。麻衣が、もう嫌やっ
て言うても、ずっと一緒におるからな」

美和「うん、ずっと。例え離れとっても、ず
っと麻衣と一緒にいるよ」

笑顔になる麻衣。

武「よっしゃ泣き止んだか？ 麻衣。ほな、

写真撮とか。はやはよ」

麻衣を中心に皆で抱き合って一つにな
っている。

シャッター音になる。

○元の大野家・台所／居間（朝・回想戻り）

写真を見つめる麻衣。

弘平の声「離れていても、ずっと麻衣と一緒
におるよ。約束は守る」

麻衣「お兄ちゃん」

弘平の方を向く麻衣、そこには弘平の

姿は消えている。

麻衣、泣く。

○結婚式場・外観（朝）

○同・挙式会場・外の扉前く中（朝）

ウエディングドレス姿の麻衣が入場するため、待っている。

麻衣の両脇には、スタッフが扉を開けるため、スタンバイしている。

中から新婦の入場曲でクラシックの曲が流れている。

扉が開くと、ゲストたちが座って麻衣を見ている。

タキシードを着た山崎大志（28）が祭壇の前で立っている。

麻衣、歩き出す。

突然、音楽が止まる。

麻衣「？」

麻衣が遊園地で家族写真を撮った時の

音楽が鳴り始める。

麻衣「……」

ざわざわするゲストたち。

周りで慌てるスタッフたち。

スタッフ1が麻衣の所へ来て、

スタッフ1「申し訳ございません。すぐに音

楽を元に……」

麻衣「いいえ。このままで良いです」

スタッフ1「え……でも」

麻衣、フツと何かを感じ取り、誰もいない隣を見つめる。

麻衣が優しく微笑む。

麻衣、歩き出す。

隣で弘平が麻衣をエスコートしている。

誰も弘平の姿は見えていない様子。

麻衣、涙を流す。

大志の前まで、歩いてくる。

大志、麻衣を見て、優しく微笑む。

麻衣の手を大志に渡す弘平。

麻衣の手を取る大志。

麻衣と大志、向き合って見つめ合う。

その後ろで、弘平、武、美和が二人を見守っている。

○同・外観

○同・挙式会場

祭壇の上で並んで立っている麻衣と大志。

カメラマンの声「はい、新郎、新婦様、写真撮りますよ」

笑顔の麻衣と大志。

シャッター音と共に、写真に写る麻衣と大志の周りで二人を抱きしめるように一つになっている、弘平と武と美和。

皆、笑顔である。

（終）